巡礼その六十　沖縄３

2023 年１月３０日
30 代の頃はダイビングで離島を飛び回り、世界に誇る沖縄の海を堪能しました。ある日急に沖縄文化に興味を持ち、第一回目としてグスク巡りを、第２回目としてお墓や祈りの施設、今回第３回目として水利施設とシーサーを見学します。
３時半に起きてブログを書く。４時４５分車で羽田に行く。案の定少し道を間違え５時３０分に到着。朝食のヨシカミのカツサンドと紅茶を買う。６時 20 分の飛行機で那覇へ向かう。席は５０％ぐらい埋まっている。今回はオリックスレンタカーで空港から送迎バスで 20 分ぐらいかかる。10 時出発して高速に乗り最初の目的地名護市久志まで約一時間である。久志は海辺の小さな集落で、通りには人影がない。集落の奥まったところに観音堂はある。ガジュマルや熱帯の植物に囲まれた堂はなんと修復中で跡形もない。内部に安置されている観音像だけがポツンと立っている。石立像で右手を上げ左手にハスの蕾を持つスタイルである。近くには組踊「久志の若按司」で有名な久志若按司の位牌安置所と墓がある。隣は久志祝女殿内（ノロの住まい）だ。次の名護市内にある名護博物館へ行く。現在立て直しのため休館中であるが、中庭に高倉があり見られるかもしれないので行ってみることにする。とても魅力的な建物で文化財として保存しても良いと思われる。建物の間に隙間がありここから入って高倉を写す。すぐそばに有名な「ひんぷんガジュマル」があり、道路はこのガジュマルを避けて通っている。同じく市内にある重要文化財の津嘉山酒造所施設へ行く。素晴らしい建物で庭も素晴らしい。昔の酒造施設は一見の価値がある。今年は桜が早く、いたるところで４分咲きで美しい。市庁舎前のアグー豚や旧国頭農学校の玄関を見た後、宮里前の御嶽のハスノハギリ林へ行く。市内にこんな森を残す名護はすごい。「安和のくばうたき」もビンロウの森である。県内でも有数の土帝君（農耕神を祀った祠）のある瀬底島へ行く。とても立派な拝殿と本殿がある。県でも一番立派な土帝君で文化財になっている。謝花の奉安殿は団地のようなアパートの中にあり、あまり彫刻はなくコンクリートの箱のようである。具志堅の村落へ行き神アシャギを探すが見つからない。神アシャギとは本島北部地方において、集落の神祭りを行う小屋のことで

４本柱または６本柱で壁がない吹き抜け構造、床張りもなく、軒が極端に低く、腰をかがめないと中に入れない建物で茅葺き屋根の寄棟造で伝統的な様式だ。最近のものはコンクリート造りで、木造茅葺き屋根のものは少なくなってしまった。やっと階段を登り斜面の一角に思ったよりも大きく丈の低い茅葺き屋根の神アシャギが鎮座している。近くの具志堅大川ブプガーは素晴らしい水利施設でバリ島の沐浴場を思い出す。ここにはとても可愛いナマズの水口があり、素晴らしいセンスだ。ここから本日の宿フクギテラスまでは 15 分ほどである。フクギ並木の中ほどにあり、海岸まで１分です。琉球瓦（シーサーが載っている）の一棟建てで広いリビングとベッドは４つ、キッチン、洗面台が二つ、トイレ、猫足のバスタブと外にジャグジーがついている。ここ備瀬のフクギ並木は県で一番だ。この雰囲気は他にはない。玄関の門を出てフクギ並木を通り、すぐに海岸で前には伊江島が見える。西なので夕日が綺麗だ。ジャグジーと風呂に入り６時半に予約してある備瀬の先端にある「ちゃんや～」へ。沖縄は一月の終わりでも６時はまだ明るく、マジックアワーに通るフクギ並木は最高。15 分で「ちゃんや～」に着く。きょうの料理は「本部牛＆あぐー豚陶板焼きコース」でがんもどき、もずく酢、ミミガーのあえもの、海ぶどう、ソーミンチャンプルーが出てくる。沖縄は有数のクルマエビの養殖地なのでクルマエビの塩焼きを別に頼む。大皿に本部牛のバラカルビ、サーロイン、トモサンカク、あぐー豚のバラ、肩ロース、モモ、野菜はキャベツ、エリンギ、玉ねぎ、人参、ゴーヤ、豆腐が盛られています。薬味は特製タレ、塩シークワーサー、わさび醤油で食べます。陶板に次々とのり、どんどんなくなっていきます。とても美味しく値段は東京の半分だ。ご飯とアオサのお吸い物、マンゴーゼリーが出てお腹いっぱいになる。帰りは半月に照らされたフクギ並木を星を見ながら帰る。部屋に戻りコーヒーを淹れて寝る。
１月 31 日
６時起床、沖縄の冬はなかなか朝が開けない。７時少し前に明るくなる。海岸に出てみる。とても気持ちが良い。部屋に戻ると、朝食の弁当が届く。朝食付きなのである。弁当でスパムおにぎり２個、エビフライ、鳥の唐揚げ、豚の煮物、コーン、ブロッコリー、別にフルーツ、グレープフルーツ、オレンジ、パイン、キウイが付く。作りたてなのでまだ暖かく、とても美味しい。沖縄の弁当はレベルが高く美味しい。８時に出発、万座毛の近くの「７つ墓を」探すが見つからないので、万座毛へ行ってみる。結構人が出ていて賑わっている。台湾人がとても多い。切符売り場のお姉さんに「７つ墓」のことを聞くとなんと自分の家の墓がその一つだと言う。場所を確認して万座毛を見に行く。綺麗に整備され遊歩道になっている。万座毛は断崖の岩が侵食され象の鼻のようになっている。天気がよく海がとても綺麗だ。７つ墓は墓地の中に、昔の立派な墓

が７つ並んでいるところである。恩納村の公民館に神アシャギと火神があるので見学する。その後「沖縄の名木百選」に認定された旧古堅国民学校校門跡のデイゴや古堅ウグゥンのフクギを見る。巨樹を見ると心が安らぐ。古堅ガーは読谷村の住宅の裏にあるが、そこは自然が残るジャングルでひっそりと二つのガーがある。澄んだ水が流れて川エビがいる。ここから産湯用の水を汲み、その水で赤ん坊の額を撫でたり、エビやカニを捕らえて赤ん坊の体に這わせて赤ん坊の誕生を祝福する儀式があった。「赤犬宮」は嘉手納基地のすぐ前にあり、琉球音楽の始祖「赤犬子」を祀る。彫刻が美しい全く中国式の宮である。街中にあるとても古い登り窯跡を見でやちむんの里へ行き、現在の登り窯を見る。ここで大皿を一枚買う。チビチリガマは道路側から階段を降りて谷へ向かう。巨大なガジュマルなどに囲まれ昼なお暗い川の横に洞窟（ガマ）がある。ここは沖縄戦の時に村民がここに隠れ集団自決をした場所だ。何か霊気が漂よい思わず手を合わせる。残波岬へ行き、巨大なシーサーと泰期像（中国の文物を琉球王国に正式ルートで導入した先駆者）を見る。ここでも８割は台湾の観光客だ。お昼はそばにあった「ゆんたく亭」という沖縄そば屋に入る。私はソーキ、三枚肉、テビチが入った沖縄そばに野菜炒め、ライスがついた定食を食べる。妻は三枚肉の沖縄そばを食べる。とても美味しい。壁に貼ってあった「からし菜のチャンプルー」と「豚ニンニク」が食べたかった。その後琉球村へ行く。ここには沖縄各地から集めて古民家が移築されている。ほとんど国の重要文化財である。入場料を払い、橋を渡ると突き当たりに沖縄の魚類図鑑を焼き物で作った壁がある。これが素晴らしい。丁度広場で沖縄民謡、踊り、エイサーなどをやっていた。古民家を見て回る。喉が渇いたのでサトウキビジュースを飲む。これがとても美味しい。サトウキビは今が旬だそうで、とても甘く香ばしい。11 箇所全て見て回る。その後国頭方西海道という古道にある文化財などを見て本日の宿ホテルムーンビーチは向かう。どうしても泊まってみたかったホテルである。沖縄復帰直後の昭和 50 年（1975）に竣工したホテルは、地元沖縄の建築家、国場幸房によって設計されたリゾートホテルである。５０年近く前にできたホテルでエントランスロビーとレストランを中心に配置し、そこを中心に南北方向へと伸びる２棟の客室棟が美しいムーンビーチをややくびれて取り囲む構成となっている。ピロティを取り入れ、階層は低階層の４階建てでこれも良い。客室棟の中央部には、全ての階層を上下に貫く吹き抜けが位置し、吹き抜けの上部からは沖縄の強い光と南国の緑が降り注いでいる。その吹き抜けの最上部には屋根は無く、廊下も含めて屋外空間となっている。ホテル内を歩くと、室内を歩いていると思いきや、実は既に外に出ていたり、外と思っていたら内部であったりと、内部と外部が等価に扱われていて、自然の気候との共存が意識され

ているのが良くわかる。何しろ内部の植物が素晴らしい。室内プールは屋根のない吹き抜けの１階にある。壁はなくそのまま砂浜に続いている。その海岸のすぐ脇に室外プールがある。室内プールは直線を多用して室外プールは曲線を多用している。この時代に室外プールはインフィニティーに近い作りで海と一体化できる。前は砂浜のムーンビーチでパラソルがたくさん立っている。室内、室外いたるところにテーブル・チェアーが置かれ植物で囲まれている。階段も巧みに作られている。建築のことはよくわからないが、昔行ったできたばかりのシンガポールシャングリラホテルやスリランカのバワのホテルに近いような気がする。建築は素晴らしいがアメニティーやサービスは普通である。海側の部屋は西向きでベランダからの夕日は素晴らしいが、部屋は狭い。食事もまあまあである。西海岸はホテルラッシュで高級なホテルやコスパの良いホテルがたくさんあるのでここに泊まる人はどんな人々であろうか。夕食はホテル近くの沖縄料理屋で食べた。ホテルに戻り探検して寝る。
２月１日
６時起床、７時朝食、ビュッフェでオムレツが美味しい。窓からはビーチが見え雰囲気が良い。食後ビーチに出て、また建物を探検して出発。西原・与那原・南風原などを回る。これからは基本的にシーサーと水利施設を見て行く。特に水利施設のカー（井戸）、ヒージャー（樋川―水脈から樋で水を引いてきたもの）が素晴らしい。街中の大謝名メーヌカは水量も豊富である。我如古ヒージャーガーは石積みが素晴らしい。西原内間御殿は琉球王朝の尚円王の旧宅跡地に建てられた神殿を中心とする祭祀施設であるが全面改修整備を行っているので見学できない。その後西原・与那原・南風原のシーサーを見て回る。お昼は近くにある「玉家そば」へ行き三枚肉の沖縄そばとおいなりさんを食べる。有名店で満席である。本日最後の斎場御嶽へ行く。およそ 40 分である。以前来た時は切符売り場の前の駐車場は満車でさらに奥の駐車場も満車であつたが、今日は切符売り場の前の駐車場がかなり空いていた。切符を買って入り口まで１５分ぐらい歩く。前回はぞろぞろ繋がって見学したが今回は人がほとんどいない。そのためこの場所の神聖さが伝わる。人声の全くない。やはり素晴らしい御嶽である。駐車場に戻りぜんざいを食べようとしたが無いのでプレミアムソフトを食べる。本日の宿「海座」へ向かう。前回も泊まったので道はわかる。ここは階段がきついので電話して荷物を運んでもらう。部屋も前回と同じ所を予約した。なぜかここが一番落ち着く。自分の家みたいである。窓を開け放して海を見ながら入る風呂は気持ちが良い。リビングからベランダに出てぼーとして涼んでる時間がまた良い。雲がとても美しい。

夕食はいつものチャーリーレストランへ行く。なんと休みであった。しょうがないので南条の町へ探しに行く。「レストラン　カイヤン」という看板が目についたので行ってみる。とても広くテーブルと座敷がある。洋食が食べたかったのでカツカレー、妻はスパゲティーミートソースとゲゾの唐揚げを頼む。カツはやわらかくカレーも美味しい。両方ともサラダとスープがついている。「海座」に戻りすぐに寝る。
２月２日
６時起床、風呂に入る。外は小雨が降っている。朝食は冷蔵庫の中にチーズのホットサンド、サラダ、オレンジジュース、ヨーグルトが入っている。ホットサンドメーカーでパンを焼く。雨がひどくなってきたが出発の時には霧雨になっていた。まず前回行きそびれた浜川御嶽へ行く。ジャングルの中にとても神聖な御嶽がある。今まで行った御嶽の中でも素晴らしい。それもそのはず久高島からきたアマミキヨがはヤハラヅカサに上陸し浜川御嶽にしばらく仮住まいし、その後ミントングスクに安住の地を開いたという話がある。ヤハラヅカサを見に海岸に出る。ちょうど半分が海面に出ていた。近くまで来ているので垣花樋川へ行く。前回は坂の上から降りてきたが帰りの登りが大変なので今回は坂の下から行く。ここは何回きても素晴らしい。途中の仲村渠樋川にもよる。ここも好きなヒージャーの一つである。ミントングスクは知念さんの個人所有なので断り見学する。急な階段を上りついたところは小さな平地になっており、琉球石灰岩がそびえている。案内板がないのでどこが拝所か良くわからない。その後またシーサー巡りをして、お昼に糸満にある漁民食堂へ行く。ガイドブックにも載っている有名店で案の定待っている人が沢山居る。１時間待って入場、ここは取り立ての魚を調理してくれるのだがその魚がほとんど売り切れてしまい、鮪と青鯛しかない。もちろん青鯛を頼む。ランチは全てバター焼きでソースが選べる。アオサソース、豆腐餻ソース、ウコンソースの３種類ありアオサソース、妻は豆腐餻ソースを頼む。その他に紅芋の天ぷらを頼む。ランチはまずマグロのサラダとマグロのたたきが出る。それをこの店のシビレ醤油（山椒入り）で食べる。とても美味しい。紅芋の天ぷらも美味しい。そして青鯛、ご飯、味噌汁、漬物、もずく酢が出てくる。青鯛はバター・ニンニクでカリカリに焼かれ、そこにアオサソースがかかっている。絶品で１時間待った甲斐は十分ある。帰りにシビレ醤油をお土産に買う。その後残っているシーサーを見学してレンタカーを戻す。すぐ隣がガソリンスタンドでここで満タンにする。飛行場へ送ってもらい、おみやげ物屋を見で、早めの夕食をとる。まだあまりお腹が減っていないのでサンドイッチを食べる。なんとそこは「グルメ」というお店で 40 年前に六本木にあった。懐かしくグーグルで調べたら大阪や沖縄に

お店を持っていたがすべて閉鎖し、今残っているのは空港だけであった。エビカツサンドとハムタマゴサンドを食べる。飛行機は 30 分遅れで羽田へ。